

2019年度佐賀県立伊万里農林高等学校(佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパスを含む)学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
○知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、農業教育を通して豊かな心・勤労観・職業観を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。 ○初代校長が示された「綱領」5か条(至誠一貫、勤労の習慣、敢為進取、規律遵守、心身鍛錬)を基本とする学校生活づくりをめざす。	○スローガン「農林 マナーアップ宣言」 ・挨拶マナーアップ ・身だしなみマナーアップ ・学ぶ姿勢マナーアップ ①基本的生活習慣の確立とマナーの向上 ②魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進 ③学力向上 ④希望進路実現100%達成 ⑤危機管理意識の向上 ⑥部活動の推進とボランティア活動の充実 ⑦働き方改革の推進

3 目標・評価				
①基本的生活習慣の確立とマナーの向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	基本的生活習慣の確立が図れたか	・延べ遅刻者数の前年度比3割減、全体出席率98.5%以上、特別指導者数の前年度比3割減をめざす。	・日々のHR指導の中で、規則正しい生活と時間を守ることの大切さを繰り返し指導する。 ・学年・学科・分掌の連携による生徒情報の共有と、組織的な指導体制の確立を図る。
		挨拶マナーアップに取り組めたか	・生徒の80%以上が好感の持てる挨拶の励行に取り組めたと実感できるようになる。	・生徒一人一人が人間関係を築く上で、「なぜ、挨拶が必要であるか」を十分理解させ、挨拶の指導を集会や授業で行う。 ・社会人として必要な言葉使い、ビジネスマナーを日ごろの教育活動で指導する。
		身だしなみマナーアップに取り組めたか	・生徒の80%以上が服装や頭髪のマナーアップに取り組めたと実感できるようになる。	・日々の「チェックカード」による個別指導を全職員の共通理解と共通指導により実践し、保護者と連携した正常化を図る。 ・全校集会を効果的に実施し、生徒の意識向上を図る。 ・日々のHRや学年集会をとおして、マナーアップに向けた指導と雰囲気づくりに努める。
		マナーアップに向けて、職員一丸となって指導に取り組めたか	・マナーアップに向けて全職員が意識をもって指導に取り組む雰囲気をつくる。	・毎週火曜日、全職員での校外登校指導を実施し、校外での身だしなみと交通安全指導、マナーアップ指導を行う。
	●心の教育	他人を思いやる気持ちや豊かな心の育成が図られたか	・他人への思いやりのある言動がとれる生徒90%以上をめざす。	・地域連携の取組やボランティア活動における地域の方々とのふれあいに加え、人権・同和教育に関する講演会や日々のHR等をとおして、人間性豊かな生徒の育成を図る。
	●いじめ問題への対応	いじめの根絶に向けた、生徒の意識向上が図れたか	・「いじめは絶対に許されない」という意識を持つ生徒100%をめざす。	・LHRでいじめ防止のための標語づくりを行い、校内に掲示し、いじめを許さない雰囲気づくりに努める。 ・日々のHR等で、初期のいじめ事象発見に努めるとともに、HRや学年集会等で、いじめ防止と人権尊重についての指導を徹底する。
	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成が推進されたか	・朝食を摂って登校する生徒の割合を90%以上にする。	・保健だよりを毎月発行するとともに、朝食に関するアンケートを実施し、朝食を摂ることの大切さを理解させる。 ・面談等をとおして保護者に理解を求める。
②魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○魅力ある学科づくり	農林業の実習や商品開発・販売実習の充実が図られたか	・学科の専門学習への興味関心度80%以上をめざす。	・中学生への学科PRも視野に入れた学習の工夫・改善と新しい分野への取組等に、学科職員が意識をもって取り組む。
	○農業クラブ活動	農業クラブ活動をおとした、専門教科に関連する知識・技能の向上が図られたか	・農業クラブ県連大会で、チーム・個人を含め、5部門以上での最優秀・優秀等の入賞をめざす。	・校内での選考方法を改善することで、早期の指導体制を確立させ、徹底した反復練習に取り組むことで、レベルアップを図る。
	○地域と連携した研究活動・交流活動	保護者や地域の方の積極的参加が図られたか	・農業文化祭や学校開放講座を充実させ、来校者・参加者数の増加をめざす。	・各科の展示内容・体験実習内容の工夫を図るとともに、生徒が前面にでる校外向け活動の企画と広報活動に努める。
学校運営	○タイムリーな情報の発信	中学校へのPRの推進されたか	・体験入学参加者数250人(引率含む)以上をめざす。 ・新高校の教育内容等の周知と広報活動の充実させる。	・新高校の学習内容がよくわかる、中学生にとって魅力的な体験入学になるよう検討する。 ・新高校のことがよくわかるパンフレットの作成とPR方法の展開と充実を図る。
		学校行事や教育内容の情報発信がなされたか	・学校だより(至誠)の毎月発行と内容の充実を図る。 ・学校ホームページを毎月更新する。 ・行事やイベントごとに積極的なプレスリリースを行う。	・特色ある教育活動の集約と編集に向け、各学科からの情報提供の推進と内容の充実を図る。 ・HPは常に最新の情報掲載に努めるとともに、携帯版サイトによる情報発信を推進する。
③学力向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教職員の資質向上	授業力の向上と授業改善がなされたか	・生徒のアンケートで、「授業満足」の割合を80%以上にする。	・全教諭・講師による公開授業を実施し、参考となる点や課題、生徒の様子等の情報共有から、全体的な授業力向上につなげる。
	●学力向上	基礎学力の向上と定着が図られたか	・「朝学習の時間」に主体的に取り組む生徒の割合を90%以上にする。 ・全生徒の年間での小テスト平均点を70点以上にする。	・「朝学習」「朝読書」「小テスト」をわかりやすく年間計画の中に組みこむことで、効果的な朝の学習体系を確立する。 ・分掌・教科・学年団(正副担任)が連携して指導充実とクラス全体の雰囲気づくりに努めるとともに、事後指導の充実・徹底を図る。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	教職員のICT利活用能力向上が推進されたか	・アンケートで、「積極的なICT活用の授業実施」に努める教職員の割合を80%以上にする。	・毎学期「ICTを利活用した授業の公開授業週間」を設定することで、授業者の利活用意識の推進と参観者の利活用方法の改善・検討を図る。

④希望進路実現100%達成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の充実が図られたか	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒が80%以上を目指す。	・すべての教科等、学校行事を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。
	○進路指導	生徒の希望進路への実現が達成されたか	・進路決定率100%(10年連続)を継続する。 ・国立大学、学科関連大学等への進学者増を目指す。	・1年次より、進路講演会や進路啓発のためのガイダンスに取り組むとともに、3年生対象の面接および、作文指導等を充実させる。 ・面接指導を全職員で実施し、学校を挙げた指導体制・雰囲気づくりに努める。 ・大学進学希望者には早い段階から大学見学、進学指導を実施する。
		キャリア教育の充実が図られたか	・希望進路の早期決定につながるようインターンシップを充実させる。	・進路指導、各学年、各学科が連携し、分掌ごとの行事やキャリア教育を効果的に融合させ、生徒個々人の進路希望の情報共有を密にすることで、早期の希望進路決定につなげる。 ・2年次のインターンシップは就職実績のある企業での実施率を高める。
⑤危機管理意識の向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○危機管理安全対策	事故防止への意識向上が図られたか	・授業・部活動や登下校時の事故(要報告分)の、前年比半減をめざす。	・授業・部活動での事故防止及び発生時の緊急体制等に向け、研修会等を実施し、生徒・指導者の安全確保に対する意識を高める。 ・校内各所の安全点検を強化し、事務部とも連携した未然防止対策を積極的に行う。 ・緊急時の迅速かつ的確な対応と連絡(一斉メール配信)を行う。
⑥部活動の推進とボランティア活動の充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒会活動	部活動の推進が図られたか	・1年生は全員部活動加入であり、2、3年生の部活動加入率も80%以上をめざす。 ・県総体や新人戦等で、昨年以上の大会入賞をめざす。	・日々の活動をとおして、部活動の意義や効果等を理解させる。また、未加入者に対し、担任・学科の連携により加入促進の指導に努める。 ・日々の練習により体力・技術の向上に努めるとともに、練習試合等をとおして競技力向上を図る。
	○ボランティア活動	ボランティア活動に取り組む生徒の意識が高まったか	・生徒のアンケートで、ボランティア活動の大切さを理解し、意欲的に取り組む生徒の割合を80%以上にする。	・地域に出向いての学校全体あげでの継続的なボランティア活動や地域との交流活動に取り組む。 ・学期ごとにボランティア週間の設定し、プチボランティアに取り組ませる。
⑦働き方改革の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善と教職員の働き方改革の推進	学校行事の精選と効率的運営が図れたか	・講演会等の行事の精選を行う。 ・体育祭・文化祭等の企画内容・役割分担の見直しを行う。	・生徒に必要な行事の観点から精選を行い、企画・準備等の負担を減らしていく。 ・準備期間の長い行事の内容と役割分担で負担の分散を行うよう見直しを図る。
		部活動指導の効率的運営が図れたか	・適切な部活動休養日の設定を行う。 ・顧問間での指導日の連携を行う。	・各部活動、週当たり2日以上休養日を設定し、効果的な指導方法の展開を図る。 ・複数顧問の交代での指導体制を推進する。

●は共通評価項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目